

# みやぎの環境

NO. 7

特集：水とともに



1993

9

# 「小さな変身の朝」

シャンソン歌手 かいやま 由起

環境をテーマに文を、と依頼されて、私は途方に暮れてしまいました。これまで、まじめに考えたことがなかった気がします。そうした問題に真剣に取り組んでいる方々が大勢いらして、私も知らずにその恩恵を受けている、とわかってはいるつもりですが。

私はこの十九年、好きなシャンソンを歌ってきました。ご存知のようにシャンソンは、個人の心理を歌うのが得意です。とくに、愛の歌はそれはもう本当にすばらしい。真の愛の歌は、徹底した個人主義からしか出てこないと思うほどです。でもその反面、環境に通じるような、共同体的な歌は多くありません。環境という考えは、限られた地球に生きる私たちの、新しい共同体的意識から生まれたと思います。

愛や恋の歌は好きだけど、やっぱり環境とは結びつかないのかな…と考えるんでしまつて。一言も書けないまま、締切りがきてしまいました。真つ赤な目で、朝ごはん。ふいに、自分がちよつと違つていることに気づきました。ティッシュや割り箸をポイポイ使うたびに、胸がチクツとするんです。「シャンソンと環境を結びつけようなんて、傲慢だった」と、苦笑しました。どんな立派な歌や文より、こういうことを感じる心のほうが大切なんじゃないかしら。私にとっては、ちよつぱり「変身」を、感じた朝になりました。



表紙：船形山鈴沼

## みやぎの環境 第七号

小さな変身の朝 かいやま由起…2

特集◎清らかな流れ いつまでも 水とともに…3

しやん

多様な生物を育む

夏の伊豆沼・内沼 柴崎 徹…8

エコライフ

秋の草木と遊ぼう…10

エコマーク商品の対象品目…11

地球にやさしい商品…11

INTERNATIONAL

NEWS・環境伝言板…12

本棚・環境情報センターから…13

見る・聴く・ふれる

こもれびの森・森林科学館…14

まちなみ

仙台市若林区河原町 近江 隆…15

G A I A 「三地球」 早坂 国夫…16

C O N T E N T S

「水とともに」



ほたるの里 鱒淵川

山紫水明——

豊かで清らかな水に恵まれたかつての日本は、この言葉のイメージにふさわしい国でした。

現在、産業は発達し、物質的には満たされた生活を送れるようになりましたが、反面、自然環境は破壊され、緑や澄んだ水は、しだいに失われていきました。

国内外からは、経済大国と言われるようになりましたが、人々の心の中からゆとりがなくなり、自然を愛し、自然と共に生きる気持ちは、乏しくなって来たように思います。

開発も勿論大切ですが、そのために美しい自然が失われていくのは悲しいことです。今、私たちはこのことに、真剣に目を向けなければならない時が来たようです。

— 清らかな流れ いつまでも —

## 水とともに

すべての生物は  
水から生まれた

地球は「水の惑星」と呼ばれています。そして太陽系の中で、唯一、満々と水をたたえている惑星です。

海は地球の表面積の約七〇%を占めています。

この海水から生命が誕生したのは、いまから約三十五億年前のことと言われています。

バクテリアのような単細胞生物が、長い年月をかけ、幾多の進化の過程を経て、現在の地球上の動植物となっていったのです。生物は水から生れ、水に守られ、そして進化して来たのです。

日本には多くの河川があり、それらを水道水源や、農業、工業用水として、私たちは利用しています。

「湯水の如く……を使う」と言う言葉があるように、あまりにも無造作に水を使っていたのではないでしょうか。

自然からの恩恵に慣れてしまい、水に対する感謝の気持ちを忘れがちになっていたような気がします。

断水になったり、給水制限を受けたりすると、水のありがたさを改めて感じるのです。

そればかりではなく、自らの手で、この貴重な水を汚して来たのです。

水は毎日の生活や、産業などで利用している

ばかりではないのです。

音楽の世界にも、水を引用し、主題にした曲は数多くあります。

「水上の音楽」ヘンデル、「美しく青きドナウ」ヨハン・シュトラウス二世、交響詩「海」ドビュッシーなど、人々に親しまれています。

絵画でも、中国や日本の山水画、モネの「睡蓮」など、水をモチーフにした作品の数々は、私たちの生活に、潤いを与えてくれています。

私にちなんだ、故事・ことわざもたくさんあります。

「覆水盆に返らず」

「水魚の交わり」

「立板に水」

「百年河清を待つ」など

このように、水は古今東西を問わず、生活に深く結びついて来ました。

また、都市空間の中に存在する水は、私たちを和やかな気持ちにさせてくれます。

東京の高層ビル群の中での、カルガモ一家の引越しは、ほほえましいニュースとして、まだ記憶に新しいところです。

公園や、広場の噴水のかたわらに憩う、幼い子供を連れただお母さんの姿は、平和な街の風景です。

このように、生活環境に無くてはならない水、快適環境を作り出すために大切な水をどのように守って来たのでしょうか。



ゴミを拾う町内会の人々



▲折られたり、汚された看板が泣いています。



## 名水を守る人々、 地域での水環境保全活動

一九八五年に環境庁は、日本全国の河川や泉、湧水の中から「名水百選」を選び出しました。この選定基準の中に、地域の人々による保全活動があるという項目があります。昔から、その土地の財産として大切にされ、今日まで名水が受け継がれて来たのは、人々の暖かく優しい心遣いがあったからなのです。宮城県からも「桂葉清水」(高清水町)、「広瀬川」(仙台市)の二つが、「名水百選」に入っ

ています。

仙台市民に愛され、安らぎを与えて来た広瀬川も、昭和三十年代から四十年代にかけて、人口の増加にともなう家庭排水の増加等により、大変汚れた川になっていました。

もちろん、かつてはすんでいたアユや、カジカガエルも、影をひそめていました。

これを憂えた流域の人々は、広瀬川の愛護と浄化運動に立ち上り、河原の清掃のボランティア活動が盛んになりました。

仙台市もこれにこたえて、昭和四十九年九月に水の流れは勿論、周囲の自然環境保全を目的とした「広瀬川の清流を守る条例」をつくりま



こんなにたくさんのゴミが……



清掃活動1



清掃活動2

した。  
この条例の目的は、市民共有の財産である美しい広瀬川の清流を保存して、次代に引継ぐことです。

条例制定のきっかけとなった市民の清掃活動は、今も続けられています。

広瀬川流域には、こうしたグループが二つあり、それぞれ河川汚染の原因である「ゴミ」の不法投棄を防止し、河川の美化を図っています。

この長年の苦勞が報いられ、北部広瀬川愛護推進協議会は、平成四年六月に環境庁水質保全局長から「水環境賞」を、また仙台南地区広瀬川環境美化推進協議会は、平成三年八月に東北地方建設局長から感謝状を、それぞれ受けてい

ます。

このように、地域の人々の水に対する愛情に支えられた、美しい自然環境を守る心により名水が保たれ、そして将来も維持されていくのです。

県内には、まだまだほかに清流や水辺を守っている人々が、地道な活動を続けています。

ゲンジボタルの里である東和町の鱒淵川では、毎年六月下旬から七月上旬にかけて、ホタルの群れが飛びびかい、訪れる人々の目を楽しませてくれます。

これはゲンジボタルの生息地を守るために、地域の人々により結成された「鱒淵ゲンジボタル保存会」の十七年間にわたる保護活動が実を結んだ結果なのです。

今でもこの会は河川清掃は勿論、ホタルの発生期に捕獲防止のパトロール、産卵の終わる時期の雑草刈り等、活動を続けています。

「ホタルまつり」も回を重ねて今年では六回目となり、地域の人々の努力が続く限り、この里はゲンジボタルの安住の地となっていくことでしょう。

### 豊かな自然環境を 私たちの手で取りもどそう

水道の水には、水質の安全性と信頼性を確保するために「水道水質に関する基準」が定められています。

この基準が平成四年十二月に改められ、おいしい水などより質の高い水道水の目標値、即ち快適水質項目・十三項目及び、より水質の安全性を期するための監視項目・二十六項目が新たに設けられ、全部で八十五項目にわたる新しい基準が定められました。

山や、川や、海を愛し、自然の懐に抱かれながら生活していたかつての日本を、いたずらになつかしむのは、現代に生きる私たちの取るべき道ではありません。

地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、熱帯雨林の減少等人間が行って来た行為に対し、今、厳しく自然から反省を迫られています。

自然環境保全の必要性、重要性は誰しも理解しているところです。

何をなすべきか、との問いに対する議論も多



清掃活動3

くの人々により、真剣にされています。

川にゴミを捨てない、家庭から汚れたままの排水を出さないように心がける、このような身近なことに注意して、一人ひとりが、出来ることから実行していくことが大切なのです。

個々人の気遣い、心がけが集まった時、大きな力となります。

この力により地球環境保全のため、より良い道が開けて来るのではないのでしょうか。

豊かな自然環境を再び私たちの手に取り戻すのは、困難なことです。

多くのハードルを越えなければなりません。

しかし、人類のこれからの繁栄を願う地球を守るには、今生きている私たちの務めです。

困難なるが故に手をこまねいていけば、事態



▲美しい広瀬川の清流 ▼

引用・参考にした図書  
水の はなし I 高橋裕編 技報堂出版

は益々悪化する一方です。

これ以上地球を汚染しない、自然環境を破壊しないよう、心を合わせて行動する時だと思えます。

地球規模で、より良い自然環境の保全がさけられています。

今回は、水を中心に取り上げてみましたが、勿論こればかりではありません。

「私たちの地球は、私たちが守る。」この気持ちこそ、今、最も必要なものではないでしょうか。

今日からできる  
河川水をきれいにする  
生活の工夫

- 流しには三角コーナーを置き、ネットやろ紙をかぶせましょう
- 流しの排水口(ストレーナー)には目の細かい網やろ紙をかぶせましょう
- 食器や鍋などについた油污は、紙などでふきとってから洗いましょう
- 廃食用油は絶対に水に流さないようにしましょう
- 米のとぎ汁は植木や庭の草花にやりましょう



多様な生物を育む

# 夏の伊豆沼・内沼

（助宮城県伊豆沼・内沼  
環境保全財団主任研究員

柴崎 徹（文と写真）



白い花をつけたガガブタの大群落



ガガブタの白い花



ハスの浄土と化した伊豆沼





夏の伊豆沼と2羽の残留ハクチョウ



あざやかな伊豆沼の野生ハス

夏、丘陵地のむせかえるような緑の中であって、ここ伊豆沼・内沼だけはまるで別世界をつくる。湖面を渡る風はさわやかであり、広々とした湖はいかにも涼しげである。  
不思議なもので、いつもこの季節になると水が澄んできて沼の底まで透かして眺められるようになる。この頃には「巻上がり現象」もすっきりおさまり、ハス

やガガブタなどのたくさんの水生植物が繁茂して、水質を浄化するフィルターのような役割をしたり、生きものたちの種類や数が増して、沼全体の生物的活性が高まり、有機物がさまざまなかたちで生物の中に固定されるためでもある。  
戦後、たくさんの湿地が干拓されて失われたなかで、それが半分にとどまった伊豆沼・内沼、その残された湿地の中



で、生きものたちは自分たちの世界を一杯つづろうとしている。湿地は多くの生きものを育むゆりかごなのである。夏はその最たる季節、冬がハクチョウやガンだとすれば、夏は伊豆沼・内沼そのものが主役になる季節なのだと思ふ。

(注) 冬の卓越風などの強風によって底泥が巻き上がり沼全体が濁る現象、水深の浅い伊豆沼・内沼では、この現象がよく見られる。

### ●交通案内●

JR東北本線新田駅、または東北新幹線くりこま高原駅下車それぞれの駅から、車で約一〇分で伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターに着く。

ここから四季の伊豆沼・内沼が楽しめる。

# 秋の草木と遊ぼう

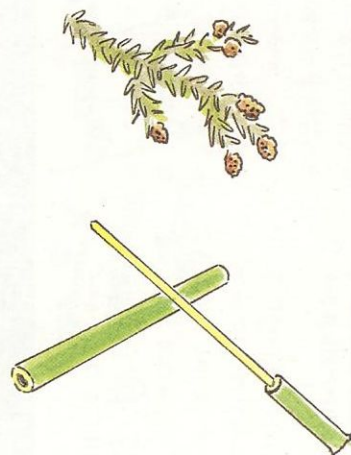
テレビもファミコンも何もなかった時代、そんなとき子供たちは自然と大の仲良しでした。さあ、そんな時代を思い出しながら秋の草木と遊んでみましょう。

ススキのヒゲの裏がわを口でかみ顔につける。



## ●ホオノキのお面と風車

ホオノキの葉はハツパの横綱。貫禄十分のハツパも秋には緑が失われやがて落ちる。大きな葉で狐のお面を作ってみよう。風車も作れます。



## ●杉の実鉄砲

春、花粉症で嫌われた杉の木に、秋ともなれば実がたわわ。さあ、杉鉄砲で遊みましょう。

## ●どんぐりは友だち

コナラ、クヌギ、ブナなどの実はどんぐりと呼ばれる。どんぐりはいつも子供たちの遊び相手です。

こま、やじろべいも作ってみましょう。



◆エコマーク商品の対象品目は、現在次のとおりです。

1. 特定フロンを使用しないスプレー製品 (人体に使用するものに限る)	29. 防音、防振マット
2. 台所流し台水切り用三角コーナー	30. 高炉スラグ微粉末と高炉セメント
3. 台所流し台水切り用ストレーナー	31. 詰め替使用品のための容器
4. 台所流し台水切り用ろ紙袋	32. 無漂白のコーヒーフィルター
5. 廃食用油吸収材	33. 有機溶剤を使用しないペイント
6. 生ごみコンポスト化機器	34. 食用油ろ過器
7. 環境に関する雑誌又は書籍 (再生紙を使用するものに限る)	35. 廃木材を使用したボード
8. 100%古紙使用のトイレトーパー	36. 空き缶回収機器
9. リターナブル容器 (回収システムが確立されていること)	37. 雨水浸透型の排水施設
10. 空びん回収ポスト (回収システムが確立されていること)	38. 家庭用雨水タンク
11. 廃食用油再生せっけん	39. 再生パルプを使用した包装用材
12. 廃木材再生品 (有害物質を含まないこと)	40. 再生パルプを使用した壁紙及び建 具用紙
13. 廃プラスチック再生品	41. 再生パルプを使用した電気掃除機 用フィルター袋
14. スティオンタブ缶	42. 廃材を使用したタイル
15. 再生パルプ使用OA用紙	43. 家庭用ゴム手袋
16. 再生パルプ使用印刷用紙	44. 無漂白のタオル
17. 再生パルプ使用一般事務用品	45. フロン回収装置
18. 再生パルプ使用包装用紙	46. 生分解性の油圧作動油
19. 太陽熱利用給湯システム	47. 生分解性の潤滑油
20. セルローズスポンジ	48. 布製ショッピングバック
21. 乳幼児用布製おむつ	49. 繰り返し使用可能な熱転写リボン
22. 使用済タイヤ再生品	50. 間伐材・小径材を利用した木製品
23. 建築用断熱材	51. 未利用繊維を使用した繊維製品
24. 再生パルプ使用のティッシュペーパー	52. 廃棄物より製造された成形炭
25. 生分解性2サイクル機関用エンジンオイル	53. 廃棄物の少ない事務機器用プリンター
26. 太陽電池モジュール利用製品	54. 詰め替え式のインクカセット・カセットリボン
27. わら床たたみ	55. 省資源型の食用油容器
28. 定流量弁及び節水型水栓 (節水こまを含む)	

エコマーク事業は、財団法人日本環境協会が実施しているものです。  
この事業では、商品を消費する段階や、廃棄する段階で、環境保全に役立つ商品にマークをつけて、このような商品の使用を消費者に推奨しています。  
本誌の創刊号(平成二年九月発行)では、一二品目、五二三商品あることを、お知らせしましたが、その後増えて、平成五年三月現在五五品目、二、五三三商品にエコマークが付けられています。



エコマークです。  
どうぞ、よろしく。

エコマークとは「私たちの手で、地球を、環境を守ろう」という気持ちを表した、環境保全に役立つ商品につけられるシンボルマークです。環境(Environment)と地球(Earth)の頭文字「e」が人間の手の形となって、地球をやさしくつつみ込んでいるデザインになっています。

(エコマークの「エコ」とは私たち人間や生物が生きていけるよい環境という意味です)

〈地球にやさしい商品〉

建築用断熱材

断熱材の使用により  
エネルギーが節約できます。

冷暖房に使われるエネルギー(電気、ガス等)は主に限りのある化石燃料によってまかなわれます。エネルギーの節約は化石燃料の節約と、燃焼時のCO<sub>2</sub>の発生量を低く抑え地球の温暖化の防止に役立ちます。(23)



### ●「第一回宮城みどりの祭典」開催される(仙台市)

私たちは、みどりという言葉に代表される「自然」とともに生きています。宮城県は、豊かで、地域的特色を有する自然に恵まれてきました。そして先人達は、この宮城の自然と一体になって固有の文化・伝統をつくり上げてきました。

今、私たちは彼らの心を受け継ぎ、残された豊かな自然や歴史的遺産を守るため、潤いのあるみどりの文化を創造する「みどりの文化の創造計画」をつくりました。

これにもとづいて、人とみどりのハーモニーをテーマに「第一回宮城みどりの祭典」が五月八日、九日の二日間、県庁県民ロビー、仙台市勾当台公園などにおいて、新緑の季節を飾るさまざまなイベントが開催されました。

また、祭典の一環として、「みやぎフワワーフェスティバル」が七北田公園都市緑化ホールで五月七日か



ら九日まで同時に開催されました。

八日に県庁ロビーで行われた式典では、緑化功労者・野生生物保護功労者が表彰され、みやぎの野鳥自然写真などの各コンクール入賞者の表彰も行われました。



本間知事が「人と緑の触れ合いの輪を広げ、緑豊かなクニづくりを進めます」と「宮城みどりの宣言」を読み上げた後、県庁前庭で百万本植樹事業の記念植樹がありました。

勾当台公園イベントステージでは「みどりのコンサート」が開かれ新緑の木々に仙台室内合奏団による弦楽四重奏のさわやかなメロディーがこだましました。

公園内に「花とみどりの相談室」を設置、「花とみどりの市」では、山野草、庭木、山菜などを即売。子供たちは「木のクラフト体験コーナー」で竹馬、竹とんぼをつくり木製がん具の面白さを発見していました。

九日は高校生らによる「みどりのハイスクールサミット」が県庁ロビーで、公園では演劇「守れ！僕らの緑の地球」や郷土芸能が演じられました。

会場を訪れた人々には、切り花、緑化木、フキ、エノキタケ、ヒラタケなどがプレゼントされ、家族連れで大にぎわいとなりました。

## 環境伝言板

### 「石巻地域リサイクルフェア」が開かれます

地球環境を守り、美しい自然を未来へ引き継ぐためには、廃棄物の発生を減少させ、リサイクルを積極的に行うことがたいへん重要なこととなります。

そのためには行政、企業及び地域の方々が一致協力して取り組む必要があります。昨年度から順次、各地域において種々の関係イベントを催し、住民の方々にその啓発活動を行ってきました。

本年度は石巻圏において、地域の方々に対し、廃棄物の減量化とリサイクルを強く訴え、また一緒に考えていただくために「石巻地域リサイクルフェア」が開催されることになりました。

開会式典は一月三日(水)石巻文化センターで、また一般展示は一月六日(土)から一八日(月)まで三日間みやぎ生活協同組合石巻駅前店三階ホールで行われ、廃棄物の処理に関することりサイクル・展示・再生利用業者・パンフレット・フリーマーケット・ゲームなどの各コーナーが予定されています。

同時に「省エネ・リサイクルフェア」も開催されます。入場は無料です。詳しいことは宮城県石巻保健所環境公書課までお問い合わせください。(☎〇二二五一九五一四二二)

### 「仙南エコ・フェア」開催のお知らせ

地球規模の環境問題の解決にむけて、環境にやさしい行動を実践しようという声があちこちで大きくなっています。

本年開催予定の、先に紹介した「石巻地域リサイクルフェア」もそうした一例です。仙南地域でも一月二三日(日)の二日間、白石市民会館で開催されることになりました。

内容は、「テーマゾーンA」と「ストーリーゾーンB」に分かれ、Aは学校授業の環境として行われている環境教育の紹介、対話形式による体験トーク・体験発表など、また、関係パネル、図書等が展示されます。さらに、吉川団十郎さんの環境問題を考えるオンステージが開演されます。

Bでは紙すき・廃油石けんづくりなどが体験でき、電気自動車・ソーラーカー等の展示や環境に関する相談・アドバイスも受けられます。そして再生品・不用品などのフリーマーケットや無農薬野菜等の展示即売もあります。

その他、環境ビデオの上映やリサイクルセンターの施設見学など盛りたくさん催しが企画されています。

また、同会場にて「第一回白石市生涯学習フェスティバル」も開催されます。入場は無料です。詳しいことは宮城県仙南保健所環境公書課までお問い合わせください。(☎〇二二四一五三三三二二)

## 『地球にやさしい生活術』

最近、ごみ問題、酸性雨、オゾン層の破壊等が国際的にも叫ばれ、私たちの毎日の生活の中でも環境に関するニュースや話題が目を見えます。しかしながら、多くの人は環境保護運動は特定の人のすることであり、毎日の生活からはかけ離れていることだと考えていることが多いのではないのでしょうか。

著者は世界的に有名なジョン・シーモア、ハーバード・シラードで、豊富なデータをもとに、毎日食べている食物からごみ問題、さらには環境保護運動にいたるまでわかりやすく書かれています。たとえば、『本物の水を飲むかそれとも処理された水を飲むか』という項目では、水がどこからきて、どのように使われ、どのように汚されていくかを図を使って具体的に説明しています。また、それが私たちの健康や、環境にどのような影響を与えているのか、さらには、自分の健康やよりよい環境を維持するためにどうしていけばよいのかなどを示してくれれます。

本書は身近な生活の中に視点を置き、ともすれば『環境汚染の原因は生産する企業にあるのだ』という他人まかせな気持ちになりがちな私たちに、毎日の生活がいかに環境に深くかかわっているかを気づかせてくれるひとつのきっかけになるものと思います。

(Y・S)



「地球にやさしい生活術」  
監訳 霞田栄作  
著者 ジョン・シーモア  
ハーバード・シラード

発行 株式会社エス・プリタニカ  
定価 一五〇〇円

## ビデオ・ライブラリー

### 『プラスチックと地球環境』

(社)プラスチック処理促進協会 平成5年度製作

①軽さは省エネ②プラスチックのリサイクル③クリーンに燃やすの3テーマから構成されています。プラスチックの素材の特徴やリサイクルの実態、また、ゴミを燃やすと発生する有害物質の除去方法などを説明しています。

各テーマ(10分)ごとに分かれたものもあります。

(VHSカラー30分)

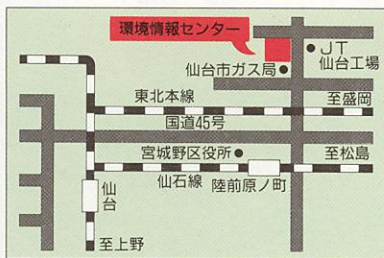
〒983

仙台市宮城野区幸町4-7-2  
宮城県保健環境センター1F  
宮城県環境情報センター  
TEL.022(257)7181 内線29

利用時間/月～金曜日、午前9時から午後4時まで

休業日/土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

交通/仙台市営バス 保健環境センター・たばこ工場前下車すぐ



## 環境情報センターから

### 新しいパネルをつくりました

環境情報センターでは、すでに作成した「みんなで守ろう地球の環境」と「宮城の水のエコロジー」のパネルのほか、今回、新しく「くらしとごみ」と題した七枚一組のもので、ごみ問題をテーマにしたパネルを作りました。

便利な使い捨て型の暮らしを見直しごみを出さない、物を大切にすると暮らし方を

を目標することが、ごみ問題を解決する大きな力となることを提案しています。サイズはいつでも日版(約新聞紙四ページ大)で、アルミ枠、吊り下げ用鎖が付いています。

環境に関する展示会、地域の各種行事に気軽にご利用下さい。

# こもれびの森「森林科学館」 光こぼれる森のまなびや

こもれびの森は宮城県の北西部、秋田県境に接する花山村に位置し、スギの人工林をはじめ、ブナやミズナラ等の天然林約一、〇〇〇ヘクタールの総称です。

この森の中核施設となる森林科学館は、木造平屋の約四三〇平方メートルで平成三年度から建設を進めてきました。森の仕組みや、林業に対する理解を深めるとともに、森林や自然の正しい知識を身につける学習の場、また、レクリエーションの場として広く利用して頂くために平成五年四月オープンしました。

館内は、森の仲間たちのプログラムから始まり、こもれびの森の様子や生息する動物等についての予備知識をビデオやパネルでわかりやすく紹介しています。

また、夜の森の世界を再現するジオラマシアターや、森の生物に関するデータをパソコンで検索する野鳥・樹木図鑑のコーナー、図書やビデオを教材に自然について

勉強できる友の会コーナー等を設けています。

野外には、湿性植物園、山菜・薬草見本園、デイキャンプ場、炊事場等を整備しましたので野外学習体験の場として利用願います。

### ■利用案内

開館期間 / 四月一日～二月三〇日

開館時間 / 午前九時～午後四時

休館日 / 月曜日(祝日の場合はその翌日)

入館料 / 無料



こもれびの森「森林科学館」全景

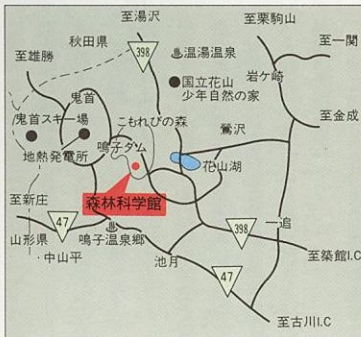
## ガイド

### ■交通案内

古川インターより車で50分  
築館インターより車で40分  
鳴子温泉より車で40分

### ■お問い合わせ

森林科学館管理事務所  
TEL 0228 - 56 - 2330  
花山村役場企画課  
TEL 0228 - 56 - 2111  
宮城県築館農林事務所林務課  
TEL 0228 - 22 - 2111



玄関ロビー“森の仲間たち”

仙台市若林区河原町

# 新旧の共存が見せる

## コントラスト

東北大学工学部助教授 近江 隆

古い路線商店街は中心部の近代化されたモールの魅力や郊外のバイパス沿いに発展するショッピングゾーンに顧客を奪われているが、地域の商店街としての独自の魅力が求められている。コミュニティ道路は車と人の共存を図りながら、これに応える地域商店街の顔づくりである。

河原町商店街は鉤の手のこじんまりした、新しいものと古い土蔵の商店とがコントラストを示しながら共存している街である。ここには秩序と無秩序、平明と迷宮（ラビリンス）、直線と曲がり、凹と凸、水平と勾配、硬いと軟らかいといった対称が融合し馴染みの世界を感じさせる。通常の路線商店街とは異なり、表通りから一步内側に入った囲われ空間は、あたかも胎内の秩序を感じさせながらも、同時に再開発による超高層のツインタワーの建設は、周辺の朽ち果てつつある建物と共に、この街が現代を生き抜いていく姿を象徴するであろう。

### 交通

仙台市営地下鉄に乗り、河原町駅下車。コミュニティ道路は七十七銀行河原町支店付近からJR東北本線行人塚踏切付近まで、約500mにわたって続いている。

共存している高層マンションと古い商店



コミュニティ道路のはじまり



古い店舗が立ちならぶ細い路地



土蔵造りの理容店

# GAIA

ガイア

## 「ミニ地球」

宮城県環境生活部次長(技術担当)

早坂国夫

今年、金魚が数百匹フ化した。1cmほどに成長した時五匹を別の水槽に移してやった。稚魚は順調に育っていった。エサは己の排出物により自然発生的に発生するバクテリアと藻類である。

この水槽は自然のサイクルに合った最も単純化された健全なミニ地球であると思う。その後、一〇〇匹ほどの稚魚をこの水槽に入れてやった。稚魚はどんどんと痩せ衰えていった。自然に発生するエサだけでは不足していたからである。人為的にエサを与えてやった。ところが、稚魚は次から次へと死に至った。多くの排泄物と食べ残しによる水質の悪化が原因であった。もはや住める環境ではなくなっていたのである。

エサもやらず、水も換えず順調に機能していたこのミニ地球は自浄能力を超える排出物等により破壊してしまったのである。水質浄化装置を取りつけた。我々人間が住む地球には浄化装置を取りつける手立がない。人間の活動は、地球の生態系の健全性が保たれる範囲でなければならぬ。今、地球は極めて危機的であり、健全な環境の持続が困難な状態にある。

GAIA (ガイア) とは「生きる地球」という意味で使われる環境についての用語。もとはギリシア神話で大地の女神のこと。

「みやぎの環境」第七号平成5年9月22日発行(年2回3月・9月発行)

●発行所 〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目七番二号

●宮城県環境情報センター TEL 022(257)7181

●印刷 株式会社ソノベ

●編集委員 高橋富基、鬼頭孝之、宗久和義(保健環境センター)、遠藤清(環境政策課)、菅原康弘(環境保全課)、鈴木正章(廃棄物対策課)、千葉孝男(栗原保健所)、吉田祐二(石巻市)、伊藤禮子(山元町)



この冊子はエコマーク認定の印刷用再生紙を使用しています。